

気道と矯正歯科診療

矯正歯科治療には、一般的な治療方法の他に、手術を併用する「外科矯正歯科治療」があります。外科矯正歯科治療では、歯並び、顔貌、顎関節に加えて気道の確保ということも考えて治療しています。

睡眠中に何度も呼吸が止まる、睡眠時無呼吸症候群(OSAS)のように、気道(空気の通り道)が狭くなるとさまざまな病気や問題を招くことがあるからです。

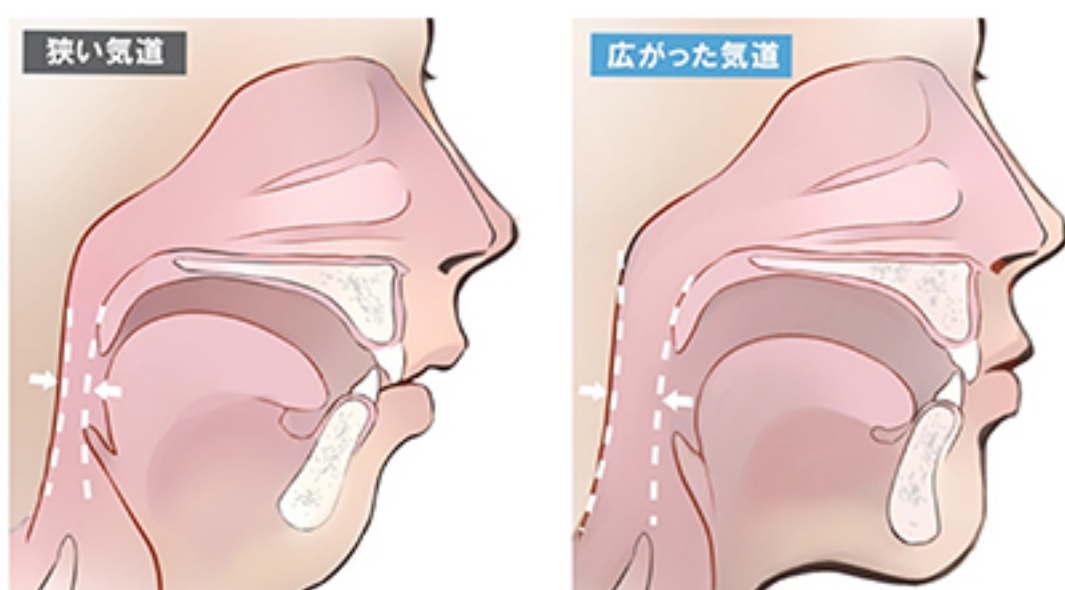
睡眠時無呼吸症候群(OSAS)の問題

日本では2003年に名古屋での列車事故で運転手がOSASと診断され話題になりました。

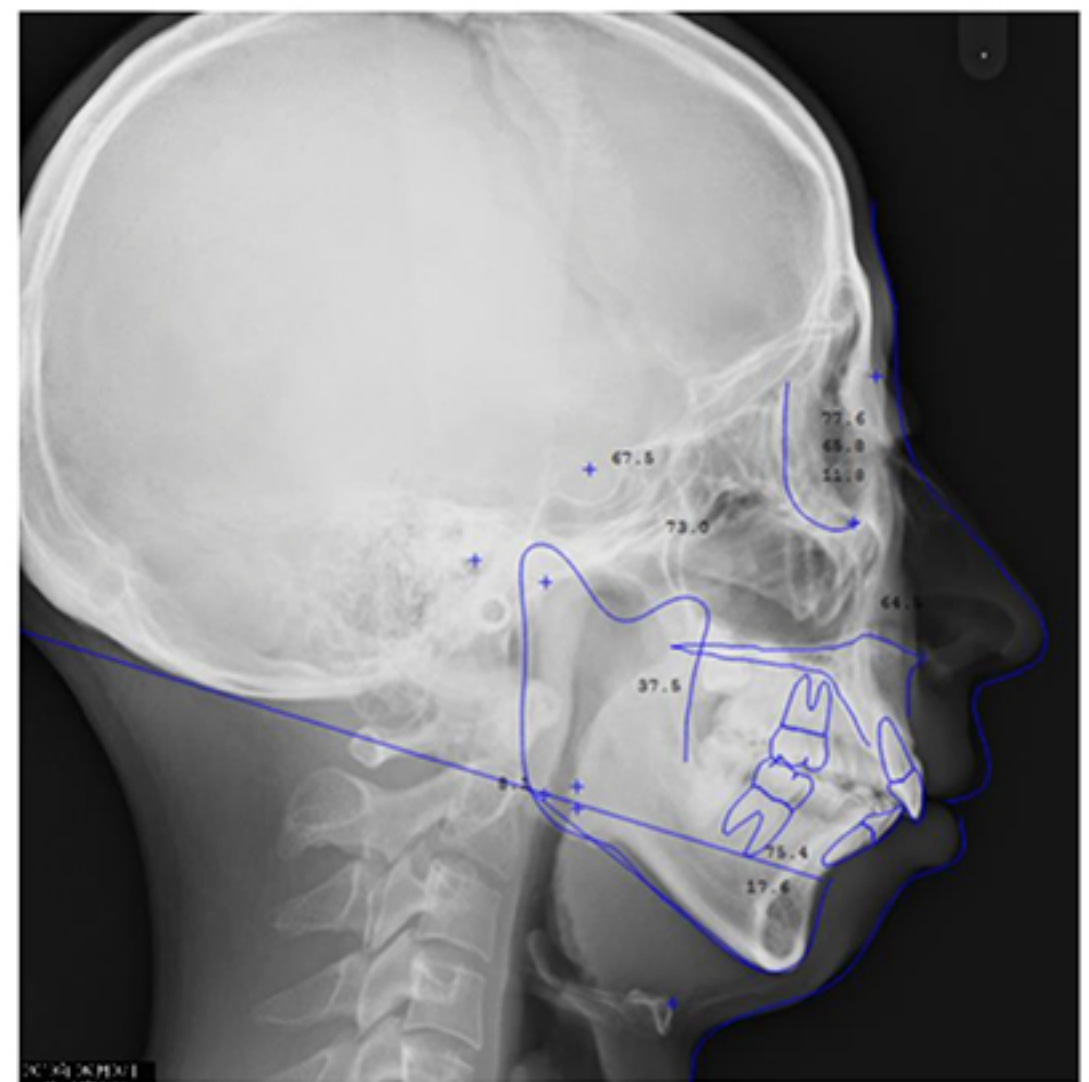
十分睡眠時間をとっていても、睡眠中に何度も無呼吸を起こして目が覚め、質のいい睡眠がとれないのです。それが原因で仕事中に眠くなり居眠り運転を招いたようです。

外科矯正歯科治療と気道の関係

図は外科矯正歯科治療による気道の変化です。治療前は左の図のように狭かった気道が、外科矯正歯科治療後の右の図では、広がっているのを表しています。



これは重度の睡眠時無呼吸患者さんのレントゲン写真で、気道が大変狭くなっています。OSASの検査では、AHI(1時間あたりの無呼吸と低呼吸を合わせた回数)が、39と非常に高く、また、動脈の酸素の量も83%と大変低いうえに、1時間に10回以上も脳波上の覚醒を示しており、このままだと命にかかわるとして、耳鼻科の方から矯正歯科へ外科矯正歯科治療の依頼となりました。





実際に外科矯正歯科治療により、気道が広がった例をみてみます。

前歯が出ていることを気にして、矯正歯科治療を受けることにした、40歳の白人男性ですが、検査で、気道が大変狭くなっていること、寝るときにイビキをかいており、OSASの傾向がありました。そのため、上と下の顎の位置を前に出す外科矯正歯科治療を行いました。

実際のレントゲンを見ると、狭かった気道が広がっています。治療前、患者さんは息苦しいなどの感覚はなかったようですが、手術の直後には、呼吸が楽になったことを実感されたそうです。

上図が治療後ですが手術としては上下顎の前方移動を行いました。

2次元的ですが、術前と術後では気道が拡大されているのが分かります。(下図)

治療前には本人、気道に問題ある自覚はなかったのですが、手術後 麻酔が覚めた瞬間に気道の変化を自覚したようです。

その日に送付して来たE-Mailの一部を紹介します。

…Indeed, this surgery has a big effect on my life. My breathing improved very much after the surgery……

「…まったく、この手術は私の人生に大きな影響を与えた。私の呼吸は手術後にすごく改善された。…」

